SAGA建設技術フェア2017 開催報告書



本報告書は、平成29年6月14日(水)~15日(木)にかけてマリトピアで開催した「SAGA建設技術フェア2017」の実施内容およびアンケート調査結果等についてとりまとめたものです。

平成29年11月

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

1.	フ:	ェアの概要1
2.	出	展者
		出展者一覧表(39 団体)2
		会場配置
	2.3	会場のようす4
		易者5
		来場者数
,	3.2	来場時間帯
4.	実力	拖 内容
	4.1	ポスター及びチラシ
	4.2	開催プログラム
	4.3	開会式10
	4.4	特別講演
	4.5	女性技術者講演
	4.6	災害派遣報告
	4.7	技術発表
	4.8	パネル展示
	4.9	閉会式
	4.10	受講証明書の配布15
5.	ア	ンケート結果16
:	5.1	来場者アンケート16
:	5.2	出展者アンケート21
6	士	とめ
υ.	~ (_ ♥/ΔJ

1. フェアの概要

主	催	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構					
共	催	佐賀県/佐賀大学理工学部都市工学科/佐賀大学低平地沿岸海域研究セン					
		ター/一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会/一般社団法人					
		佐賀県建設業協会/一般社団法人佐賀県建築士会/特定非営利活動法人技					
		術交流フォーラム					
後	援	国土交通省九州地方整備局/佐賀市/一般社団法人佐賀県地質調査業協会					
		/ 佐賀県土木施工管理技士会/一般社団法人佐賀県建築士事務所協会/低					
		平地研究会/公益社団法人土木学会西部支部/公益社団法人地盤工学会九					
		州支部/公益社団法人日本技術士会九州本部/NHK 佐賀放送局/サガテレ					
		ビ/佐賀新聞社/建設新聞社					
日	時	【1日目】平成29年6月14日(水)10:00~16:00					
		【2 日目】平成 29 年 6 月 15 日 (木) 10:00~16:00					
場	所	マリトピア (佐賀市新栄東3丁目7番8号)					
目	的	建設分野(土木・建築)の技術・工法・製品などについて、産・学・官にお					
		ける技術情報の交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進を図るこ					
		とで建設産業の発展に寄与するとともに、学生・一般の方々に建設業界の魅					
力や社会資本整備の必要性を認識してもらうことを目的とする。							
テー	- 7	豊かで安全なくらしを支える建設技術					
内	容	技術展示ブース					
		特別講演					
		女性技術者講演					
		熊本地震災害派遣報告					
		技術発表					
		パネル展示					
出展ラ	ーマ	環境/防災/コスト縮減/維持管理/佐賀の技術					
来場	易 者	総数 1,888 名 (2 日間延べ)					
		【内訳】 官公庁 157名					
		コンサルタント 261名					
		建設業 915 名					
		学校関係・一般 64名					
		学生・生徒 250名					
		ブース関係者 241 名					

2. 出展者

2.1 出展者一覧表(39団体)

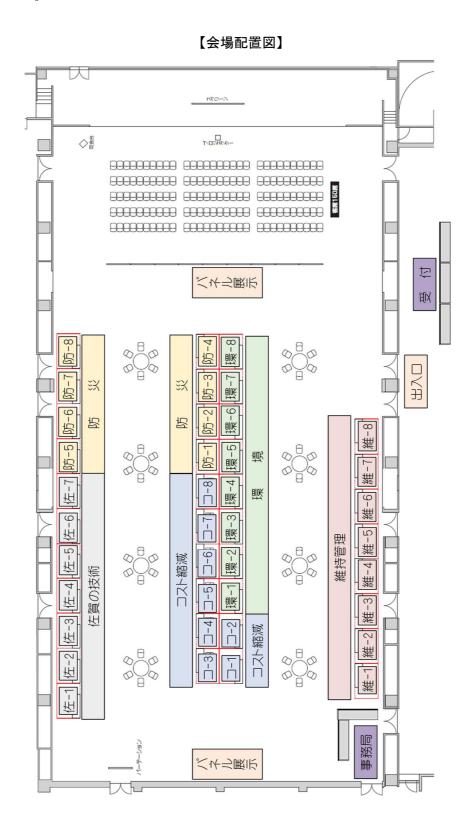
39 の企業・団体からブースを出展していただきました。 うち、県内の企業・団体からの 出展は 24 ブースでした。

【出展者一覧(39団体)】

分類	番号	企業·団体名
75 22.	環-1	日本乾溜工業 株式会社 佐賀支店
	環−2	不二コンクリート工業 株式会社
	環-3	日本建設技術 株式会社
	環-4	有明未利用熱利用促進研究会
環境	環-5	大石建設 株式会社
	環-6	高原木材 株式会社
	環-7	レストム工法研究会西日本支部
	環-8	朝日テクノ株式会社
	防−1	日本海洋整備株式会社
	防-2	東亜グラウト工業株式会社 九州支店
	防−3	株式会社 馬渡商会
n + ⟨⟨⟨	防-4	株式会社 島内エンジニア
防災	防-5	青木あすなろ建設株式会社
	防-6	株式会社 ヤマウ
	防-7	CCC工法協会 九州支部
	防−8	アジア航測株式会社 福岡支店
	⊒-1	株式会社 バイオテックス
	□-2	前田工繊株式会社 福岡支店
	⊐-3	太洋基礎工業 株式会社 九州支店
 コスト縮減	□-4	基礎地盤コンサルタンツ 株式会社
	⊐-5	株式会社 ワイビーエム
	⊐-6	国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所
	⊐-7	株式会社WASC基礎地盤研究所
	⊐-8	旭化成アドバンス株式会社
	維-1	精密舎 株式会社
	維-2	佐賀大学インフラ構造物長寿命化研究所
	維-3	NOK株式会社
維持管理	維-4	九州電力グループ 西日本技術開発株式会社 佐賀営業所
	維-5	株式会社 地域開発
	維-6	日特建設株式会社 佐賀営業所
		株式会社でキテック
	維-8	株式会社 アイティエス
	佐-1	株式会社 セリタ建設
	佐-2	VEシステムズ 株式会社
/ 	佐-3	日之出水道機器 株式会社
佐賀の技術	佐-4	GIコラム研究会 Mata Citata は Ata Cara Little Day Wilton
	佐-5	一般社団法人 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
	佐-6	フローティング基礎研究会
	佐-7	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

2.2 会場配置

会場配置は、入口付近に受付/事務局、会場入って右側にステージ、残り 2/3 に出展ブースを設けました。



2.3 会場のようす

【全景】





【受付】





【出展ブース】





【ステージ】





3. 来場者

3.1 来場者数

2日間で総計1,888名の方にご来場いただきました。建設業の来場者が最も多く、次いでコンサルタントが多い結果となりました。

【来場者集計表】

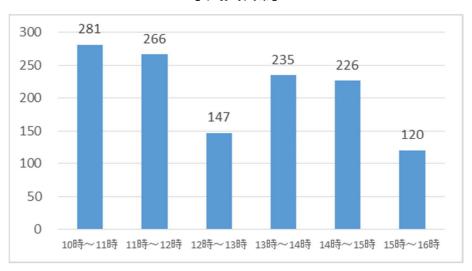
(単位:人)

		6/14(水)	6/15(木)	小計
	男性	68	66	134
官公庁	女性	11	12	23
	小計	79	78	157
	男性	137	116	253
コンサルタント	女性	4	4	8
	小計	141	120	261
	男性	135	87	222
ブース	女性	9	10	19
	小計	144	97	241
	男性	375	491	866
建設業	女性	16	33	49
	小計	391	524	915
	男性	7	16	23
学校	女性	0	7	7
	小計	7	23	30
	男性	15	17	32
一般	女性	1	1	2
	小計	16	18	34
学生		130	120	250
合	<u></u> 計	908	980	1,888

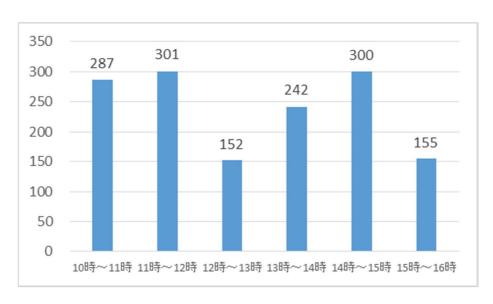
3.2 来場時間帯

来場者へのアンケート結果を参考に整理した来場時間帯は、午前と午後ともに、時間が経つにつれて会場への滞在人数が減る傾向にあるようです。

【来場時間帯】



(1日目)



(2日目)

4. 実施内容

4.1 ポスター及びチラシ

フェアの開催を広く周知するため、ポスターおよびチラシを作成し、県市町や関係団体等に配布しました。

【ポスター及びチラシ】



(ポスター/チラシ表)

(チラシ裏)

4.2 開催プログラム

1日目は開会式、災害派遣報告、特別講演、技術発表 11 件、2 日目は災害派遣報告、特別講演、女性技術者講演、技術発表 8 件、閉会式を行いました。

6	月1	4		水) ≪1	
---	----	---	--	---	------	--

10: 00~10: 15 田会式 主催者挨拶 東質挨拶 テーブカット 「		k) ≪1 日目:		
10: 00~10: 15 開会式 東賓接抄 テーブカット 「熊本地震災害派遣報告 佐賀県 県土整備部 建設・技術課 中島 重信 氏 位賀県 県土整備部 建設・技術課 中島 重信 氏 ①(コー1) (株)パイオテックス 「土留部材引版同時充境注入工法・フロートレス工法 他」 ②(コー3) 太洋基礎工業(株) 九州支店 「RBPウォール工法」 ③(コー5) (株)ワイビーエム 「Y-LNK (全自動施工管理制御システム)」 ④(コー7) (株)WAS に発地地解用の活動の紹介 液状化対策用アンカーボルトを用いた住宅の沈下修正工法 (モードセル工法)	一 時间		· • -	
10: 15~10: 45 災害派遣報告 「照本地震災害派遣報告 佐賀県 県土整備部 建設・技術課 中島 重信 氏 「	10 00 10 15	88 🔿 🛨		1
10: 15~10: 45 災害派遣報告 「無本地震災害派遣報告」 佐賀県 県土整備部 建設・技術課 中島 重信 氏 ①(コー1) (株)パイオテックス 「土留が引援し向時充填注入工法・フロートレス工法 他」 ②(コー3) 太洋延健工業(株) 九州支店 「RBPフォール工法」 ③(コー5) (株)ワイビーエム 「ソート エス」 ③(コー5) (株)ワイビーエム 「アート セル工法」 ③(コー7) (株)WASC 基礎地盤研究所 「液状化対策用アンカーボルトを用いた住宅の沈下修正工法 (モード セル工法) 」 「長崎大学インラー長寿命化センターの10年間の活動の紹介 ~道守、光計測・軍艦島・9 計測・新しし構染点検法・SIP インフラ技術の社会実装~」 長崎大学大学院工学研究科 教授 松田 浩 氏 ③(環ー2) 不ニコンクリート工業(株) 「SJ-BOX」 「「選ー5) 大石建設(株) 「「フリート 工業(株) 「「海底の掃除機」サブマリンクリーナー(SMC)工法」 ④(環ー4) 有明末利用熱利用が暖房ンステムの優位性」 ①(環ー5) 大石建設(株) 「「海底の掃除機】サブマリンクリーナー(SMC)工法」 ④(種ー3) レストム工法研究会 西日本支部 「レストム工法 「H-10029-VII」 「「発表学行 氏工・150124-A」 「小フラ構造物の点除、調査・補修に関する技術支援 および点検・診断技術の開発」 「見張奉行 ほ子・150124-A」 「「民業年7」下、150124-A」 「「民業年7」下、150124-A」 「「民業年7」下、150124-A」 「「民業年7」下、150124-A」 「「日達教授、保) 佐賀営業所 「ニューレスブエ法(の8-110014-V) 」	10: 00~10: 15	用云八		4 I
10: 15~10: 45 災害派遣報告 佐賀県 県土整備部 建設・技術課 中島 重信 氏 ①[コー1] (株)パイオテックス 「土留部村引坂同時充填注入工法・フロートレス工法 他」 ②[コー3] 太洋基礎工業(株) 九州支店 「RBPウォール工法」 ③[コー5] (株)ワイピーエム 「Y・LINK (全自動施工管理制御システム)」 ④[ユー7] (株)WASC基礎地盤研究所 「液状化対策用アンカーボルトを用いた住宅の沈下修正工法 (モードセル工法)」 【長崎大学インフラ長寿命化センターの10年間の活動の紹介 ~道守、光計測・軍艦島3 の計測・新しい橋梁点検法、SIPインフラ技術の社会実装~」 長崎大学大学院工学研究科 教授 松田 浩 氏 ⑥[環・2] 不ニコングリート工業(株) 「SJ-BOXとD-BOX」 ⑥[環・4] 有明末利用熱利用定進研究会 「有明海沿岸における末利用熱利用完護房ンステムの優位性」 ⑦[環・5] 大石建設(株) 「「海底の掃除機」サブマリンクリーナー(SMC)工法」 ⑥[環・7] レストム工法研究会 西日本支部 「レストム工法 「刊ー100029-WI」」 ⑥[雑・2] 佐賀大学 インフラ構造物長寿命化研究所 「インフラ構造物の原検、調査、補修に関する技術支援 および点検・診断技術の開発」 「見速奉行(KT-150124-A) (「口で活用した点検結果現場確認システム)」 ⑥[雑・6] 日特建設(株) 佐賀営業所 「ニューレスプエ法 (S-110014-V)」			テーブカット	_
10: 45~12: 00 技術発表(1) 名15分 ②(コ-3) 太洋基礎工業(株) 九州支店 [R B P ウォール工法・ミニウォール工法」 ③(コ-5) (株) ワイピーエム [Y -L I N K (全自動施工管理制御システム)] ④(コ-7) (株) WA S C 基礎地盤研究所 [液状化対策用アンカーボルトを用いた住宅の沈下修正工法 (モードセル工法)] 長崎大学インフラ長寿命化センターの10年間の活動の紹介 ~ 過守、光計測、棄艦島3 D 計測、新しい橋梁点検法、 S I P インフラ投例の社会実変~] 長崎大学大学院工学研究科 教授 松田 浩 氏 ⑤(環-2) 不二コンクリート工業(株) [S J -B O X と D -B O X J ⑥(環-4) 有明未利用熟利用定進研究会 [有明海沿岸における未利用熟利用流镀房システムの優位性] ⑦(環-5) 大石建設(株) 「 (海底の掃除機) サブマリンクリーナー(S M C) 工法	10: 15~10: 45 災害派遣報告			
10: 45~12: 00 技術発表(1) 名15分			「土留部材引抜同時充填注入工法・フロートレス工法 他」	-
「液状化対策用アンカーボルトを用いた住宅の沈下修正工法 (モード セルエ法)	10: 45~12: 00		③[コ-5] (株)ワイビーエム	-
13: 00~14: 00 特別講演(1)			「 液状化対策用アンカーボルト を用いた住宅の沈下修正工法	-
(⑤[環-2] 不二コンクリート 工業(株) 「S J -B O X と D -B O X 」 (⑥[環-4] 有明未利用熱利用促進研究会 「有明海沿岸における未利用熱利用冷暖房システムの優位性」 (⑦[環-5] 大石建設(株) 「(海底の掃除機】サプマリンクリーナー(SMC)工法」 (⑥[環-7] レストム工法研究会 西日本支部 「レストム工法【TH-100029-VR】」 (⑥[維-2] 佐賀大学 インフラ構造物長寿命化研究所 「インフラ構造物の点検、調査、補修に関する技術支援 および点検・診断技術の開発」 (⑩[維-3] N O K (株) 「見張奉行【KT-150124-A】 (I CTを活用した点検結果現場確認システム)」 (⑪[維-6] 日特建設(株) 佐賀営業所 「ニューレスプ工法【OS-110014-V】」	13: 00~14: 00	特別講演(1)	〜道守、光計測、軍艦島3 D 計測、新しい橋梁点検法、 SIPインフラ技術の社会実装〜」	ブース
(⑤[環-2] 不二コンクリート 工業(株) 「S J -B O X と D -B O X 」 (⑥[環-4] 有明未利用熱利用促進研究会 「有明海沿岸における未利用熱利用冷暖房システムの優位性」 (⑦[環-5] 大石建設(株) 「(海底の掃除機】サプマリンクリーナー(SMC)工法」 (⑥[環-7] レストム工法研究会 西日本支部 「レストム工法【TH-100029-VR】」 (⑥[維-2] 佐賀大学 インフラ構造物長寿命化研究所 「インフラ構造物の点検、調査、補修に関する技術支援 および点検・診断技術の開発」 (⑩[維-3] N O K (株) 「見張奉行【KT-150124-A】 (I CTを活用した点検結果現場確認システム)」 (⑪[維-6] 日特建設(株) 佐賀営業所 「ニューレスプ工法【OS-110014-V】」			長崎大学大学院工学研究科 教授 松田 浩 氏	展
14: 00~16: 00 技術発表(2) 各15分 を15分 を15分 を15分 を15分 を15分 を15分 を15分 を			「SJ-BOXとD-BOX」 ⑥【環-4】有明未利用熱利用促進研究会	示
名15分 「レストム工法【TH-100029-VR】] ②【 維-2】佐賀大学 インフラ構造物長寿命化研究所 「インフラ構造物の点検、調査、補修に関する技術支援 および点検・診断技術の開発」 ⑩【 維-3】N O K (株) 「見張奉行【KT-150124-A】 (I CTを活用した点検結果現場確認システム)」 ⑪【 維-6】日特建設(株)佐賀営業所 「ニューレスプ工法【QS-110014-V】」				- -
「インフラ構造物の点検,調査,補修に関する技術支援 および点検・診断技術の開発」 ①【維-3】NOK(株) 「見張奉行【KT-150124-A】 (ICTを活用した点検結果現場確認システム)」 ①【維-6】日特建設(株)佐賀営業所 「ニューレスプ工法【OS-110014-V】」	14: 00~16: 00		「レストム工法【TH-100029-VR】」	
「見張奉行【KT-150124-A】 (ICTを活用した点検結果現場確認システム)」 ①【維-6】日特建設(株)佐賀営業所 「ニューレスプ工法【QS-110014-V】」			「 インフラ構造物の点検,調査,補修に関する技術支援	
「ニューレスプエ法[QS-110014-V] 」			「見張奉行【KT-150124-A】	
~16: 00 1日目閉会 🔻				
	~16: 00	1日目閉会		Ψ

6月15日(木)≪2日目≫

	<u>5 月1 5 日(不) ≪2 日目≫</u> 				
10: 00~			_		
10: 00~10: 30	災害派遣報告	「熊本地震災害派遣報告」 佐賀県 県土整備部 建築住宅課 施設整備室 松尾 龍 氏			
10: 30~12: 00	技術発表(3) 各15分	 ⑫【 佐-1】(株)セリタ建設 「①マッドミキサー M-II型 ②施工管理装置 SEEM」 ⑬【 佐-2】VEシステムズ(株) 「コンクリート 劣化防止工法 ファインクリスタルS&TOP」 ⑭【 佐-3】日之出水道機器(株) 「①ダクタイル鋳鉄製橋梁伸縮装置 ②ダクタイル鋳鉄製グレーチング」 ⑮【 佐-6】フローティング基礎研究会 「コラムシステム工法」 ⑯【 佐-7】佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター 「世界に通じる学術研究で地域社会に貢献」 	<u> </u>		
13: 00~14: 00	特別講演(2)	「 インフラ整備を考える」 佐賀県 佐賀土木事務所長 田﨑 茂樹 氏	展示		
14: 00~14: 45	女性技術者講演	「女性技術者から見た建設業界の魅力」 (株)中野建設 畠田 美奈江 氏 松尾建設(株) 迫 紋花 氏 石井 那知 氏			
14: 45~15: 45	技術発表(4) 各15分	 「「			
15: 50~16: 00	閉会式	主催者挨拶	Ψ		

4.3 開会式

ステージにて開会式を執り行いました。共催や後援の皆様方にもご列席いただき、主催者 挨拶、来賓挨拶、テープカットが行われました。

【主催者挨拶(支援機構 西村理事長)】 【来賓挨拶(佐賀国道事務所長 山田 隆則 氏)】





【来賓・共催者によるテープカット】



(テープカット写真 左から)

一般社団法人佐賀県建築士会	副会長	犬塚	敏治	氏
一般社団法人佐賀県建設業協会	副会長	山口	登日	E
佐賀大学 理工学部 都市工学科	専攻長	小島	昌一	氏
国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所	所長	山田	隆則	氏
公益財団法人佐賀県建設技術支援機構	理事長	西村	亚	
佐賀県 県土整備部 建設·技術課	副課長	宮地	良幸	氏
佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター	副センター長	日野	剛徳	氏
一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会	副会長	福島	裕充	氏
特定非営利活動法人技術交流フォーラム	理事長	小野	龍太	氏

4.4 特別講演

1日目は、長崎大学大学院 工学研究科 教授 松田 浩 氏に「長崎大学インフラ長寿命 化センターの 10年間の活動の紹介」と題してご講演いただきました。

2日目は、佐賀県佐賀土木事務所長 田﨑 茂樹 氏に「インフラ整備を考える」と題してご講演いただきました。

【長崎大学教授 松田氏による講演のようす】





【佐賀土木事務所長 田﨑氏による講演のようす】





4.5 女性技術者講演

建設業界での女性の一層の活躍に寄与することを目的として、女性技術者講演を 2 日目に行いました。講演では、(株)中野建設 畠田 美奈江 氏、松尾建設(株) 迫 紋花氏、同じく松尾建設(株) 石井 那知 氏に「女性技術者から見た建設業界の魅力」と題してご講演いただきました。

【畠田氏・迫氏・石井氏による講演のようす】



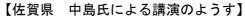


4.6 災害派遣報告

熊本地震の復興状況などを広く知っていただくため、災害派遣に行かれた技術者による 災害派遣報告を行いました。

1日目は、佐賀県 県土整備部 建設・技術課 係長 中島 重信 氏に「熊本地震災害派遣報告」と題してご講演いただきました。

2日目は、佐賀県 県土整備部 建築住宅課 施設整備室 主査 松尾 龍 氏に「熊本 地震災害派遣報告」と題してご講演いただきました。







【佐賀県 松尾氏による講演のようす】





4.7 技術発表

希望する 19 のブース出展者による技術発表をステージにて行いました。1 出展者あたり の発表時間は 15 分で各技術や製品などについて発表がありました。

【技術発表者一覧表】

	1	[⊐-1]	(株)バイオテックス	「土留部材引抜同時充填注入工法・フロートレス工法 他」
	2	[⊐-3]	太洋基礎工業(株) 九州支店	「RBPウォール工法・ミニウォール工法」
	3	[⊐-5]	(株)ワイビーエム	「Y-LINK(全自動施工管理制御システム)」
	4	[⊐-7]	(株)WASC基礎地盤研究所	「液状化対策用アンカーボルトを用いた住宅の沈下修正工法(モードセル工法)」
1	5	【環-2】	不二コンクリート工業(株)	L87-BOXFD-BOX1
日目	6	【環-4】	有明未利用熱利用促進研究会	「有明海沿岸における未利用熱利用冷暖 房システムの優位性」
l =	7	【環-5】	大石建設(株)	「【海底の掃除機】サブマリンクリーナー(S MC)工法」
	8	【環-7】	レストム工法研究会 西日本支部	「レストム工法【TH-100029-VR】」
	9	【維-2】	佐賀大学 インフラ構造物長寿命化研究所	「インフラ構造物の点検,調査,補修に関する技術支援および点検・診断技術の開
	10	【維-3】	NOK(株)	「見張奉行【KT-150124-A】(ICTを活用した 点検結果現場確認システム)」
	11	【維-6】	日特建設(株) 佐賀営業所	「ニューレスプエ法【QS-110014-V】」
	12	【佐-1】	(株)セリタ建設	「①マッドミキサー M-II型 ②施工管理装置 SEEM」
	13	【佐-2】	VEシステムズ(株)	「コンクリート劣化防止工法 ファインクリスタルS&TOP」
	14	【佐−3】	日之出水道機器(株)	「①ダクタイル鋳鉄製橋梁伸縮装置 ②ダクタイル鋳鉄製グレーチング」
2日	15	【佐-6】	フローティング基礎研究会	「コラムシステム工法」
目	16	【佐-7】	佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター	「世界に通じる学術研究で地域社会に貢献」
	17	【防-1】	日本海洋整備(株)	「ウォーターバリア(水中のセシウム・重金 属・栄養塩を吸着)」
	18	【防-6】	(株)ヤマウ	「MMSボックスカルバート(耐震性および可とう性ゴムリング継手付ボックスカルバー
	19	【防-7】	CCC工法協会 九州支部	「CCC工法」

【技術発表のようす】





4.8 パネル展示

国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所と佐賀県のご協力により、新技術・新工法やストック効果などに関するパネルを展示しました。

【パネル展示のようす】





4.9 閉会式

当支援機構の西村理事長の閉会挨拶で2日間の幕を閉じました。

【閉会挨拶】



【閉会式のようす】



4.10 受講証明書の配布

当フェアは一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の運営する CPDS (継続学習制度) の学習プログラムとして認定を受けており、希望する来場者に受講証明書を発行しました。 なお、CPDS のユニット数は両日とも 3 ユニットでした。

5. アンケート結果

5.1 来場者アンケート

来場者を対象にアンケート調査を行いました。

(1) 1 日目

設問1)フェアの開催はどこで知ったか

職場内(学校内)からの案内が最も多くなりました。

設問2)職業

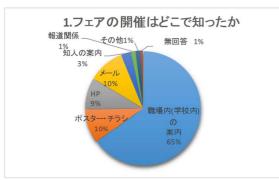
建設業が最も多く来場者の半数以上を占め、次いで建設コンサルタント(23%)とな っています。

設問3)居住地

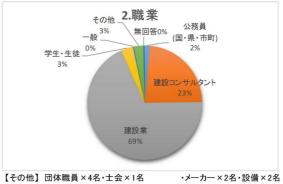
佐賀県内から来場者が80%を超え、そのうち佐賀市以外が半数を占めています。

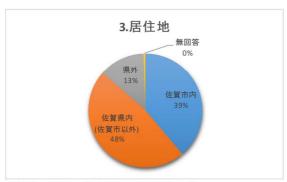
設問4) 滯在時間

午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。

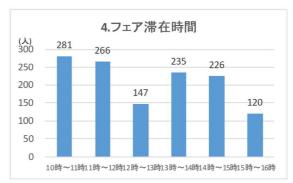


【その他】出展×4名





【県外】 福岡×51名·久留米×1名 兵庫県×1名 熊本×1名·長崎×2名



設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く54%、建設技術への興味が40%となっています。

設問 6) 来場目的は達成できたか

達成できたとやや達成できたを合計すると84%となっています。

設問7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は88%となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

妥当という回答は88%となっています。

設問9)毎年の開催を希望するか

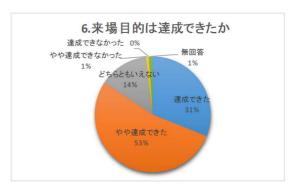
希望するという回答は89%となっています。

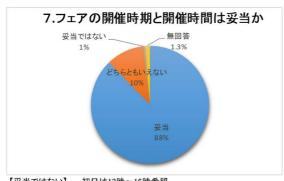
設問10)全体評価

アンケート回答者の半数以上は満足あるいはやや満足と回答しています。



【その他】出展×7名·友好業者との交流 CPDS×4名

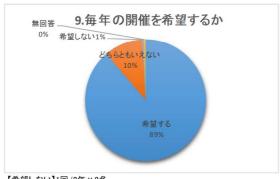




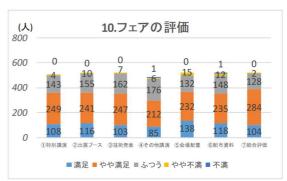
【妥当ではない】 初日は13時~16時希望



【妥当ではない】 JRから遠い



【希望しない】1回/2年×2名



(2) 2 日目

設問1)フェアの開催はどこで知ったか

職場内(学校内)からの案内が最も多くなりました。

設問2)職業

建設業が最も多く来場者の71%を占めています。

設問3)居住地

佐賀県内から来場者が80%を超え、そのうち佐賀市以外が半数以上を占めています。

設問 4) 滞在時間

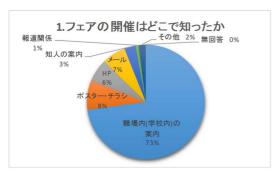
午前中の来場者が多い結果となりました。

設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く58%、建設技術への興味が38%となっています。

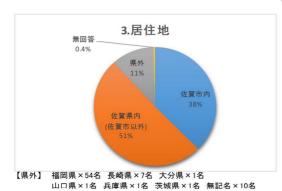
設問 6) 来場目的は達成できたか

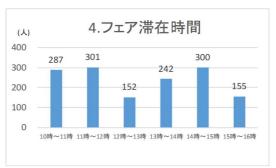
達成できたとやや達成できたを合計すると89%となっています。





【その他】 大学教員×1名 団体×2名公財×1名 一財×1名 無記入×10名





5.来場目的 _ 無回答 その他 建設技術への興味 情報収集 (業務や授業の一

6.来場目的は達成できたか 達成できなかった やや達成できなかった どちらともいえない 達成できた やや達成でき

【その他】出展×8名 展示説明×2名

設問7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は84%となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

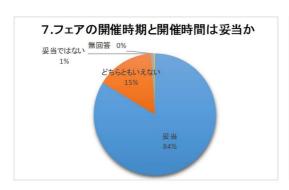
妥当という回答は86%となっています。

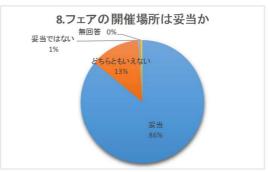
設問9) 毎年の開催を希望するか

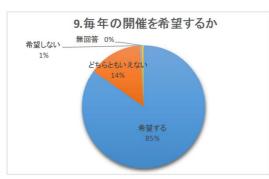
希望するという回答は85%となっています。

設問 10) 全体評価

アンケート回答者の半数以上は満足あるいはやや満足と回答しています。









- (3) 来場者からの自由意見
- ・官公庁・学校・会社等、袋で色分けするなど見分けがつくようにしてもらいたい
- ・CIM やドローンについての情報が欲しい
- ・パーテーションで仕切っている為、技術発表の聴講に集中できない。別で発表して欲しい
- ・プログラムの欄内に技術発表資料のページ位置が記載されていたら企業概要が判別しやすい
- ・省エネに関する出展が増えて欲しい
- ・建設会社やコンサルタントが日々どのような工夫をして仕事を行い、県民へのサービスが 行われているか発表されてもよいのではないでしょうか?
- ・農業技術や海の漁業技術、山の木材等の技術があれば更に良いのでは?
- ・直接現場に対応できるような資料・講演をお願いします
- ・佐賀断層帯の事を詳しく知りたい
- ・女技術者の話は面白かった
- ・建設業で女性技術者を特別扱いしない環境つくりが必要であるとの印象を持った
- ・ブース前に座れるところがあり出展内容・配布資料を見直すことができ非常に良かった
- ・公的機関からの参加が少ない。PR を
- ・NETIS 登録工法の紹介
- ・会場の広さに対してブースが狭い
- ・たくさんの企業があり様々な情報を取り入れることができました
- ・自分達の知らない技術がたくさん並んでいて面白かった
- ・土木工事で創意工夫等で活用できる出展物等ならびにネチス登録物の出展
- ・最先端の技術が見たい
- ・法面や地すべり・斜面崩壊に関連した観測機器・ソフト等展示を多くしてもらえれば幸いである
- ・3DCAD 等の出展を希望
- ・佐賀九州の技術を広めていただくいい機会だと思う
- ・役所の職員などが少ないように思えたが、県職員など来場しやすいように組織的に工夫すべきでは?(特に若い技術職員が参加しやすいように)
- ・今後の IOT 技術、i-Construction 技術
- ・軟弱地盤に対する技術
- ・舗装工事に関する技術があればお願いします
- ・女性の方の活躍を多く企画してもらいたい
- ・もう少し来場者が体験できる出展が欲しい
- ・ワーキングママ、女性の発表をもっと詳しく聞きたい
- ・技術発表や出展ブースは屋内では限界があると感じられる。屋外の活動があれば・・・。

5.2 出展者アンケート

出展者を対象にアンケート調査を行いました。39 社の出展者のうち、19 社から回答をいただきました。

設問1) 出展の目的は

新製品等の PR と営業活動が 1/3 ずつを占めました。

設問2) 出展の目的は達成できたか

やや達成できたが半数以上を占め、達成できた26%・達成できなかった16%でした。

設問3)次回も出展したいか

出展したいは74%で、出展しない26%でした。

設問4)技術発表をしたか

半数程度が技術発表したとの回答でした。

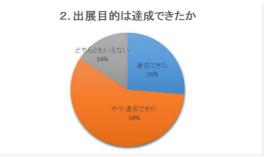
設問5) 技術発表の時間(1社あたり15分間)は十分か。

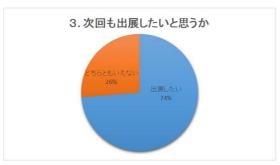
半数以上は十分だと回答しました。

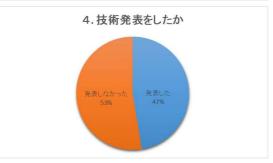
設問 6) 次回は技術発表をしたいか

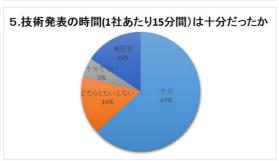
次回も技術発表をしたいと答えたのは47%でした。

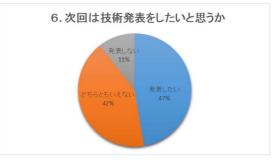












設問7)来場者数に満足したか

満足と回答したのは53%でした

設問8) フェア後に来場者にPR したか

半数以上の出展者がフェア後に PR したようです。

設問 9) フェア後に来場者からの問合せはあったか 来場者から問合せがあったのは 16%でした。

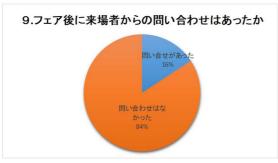
設問 10) フェアへの出展は有効だと感じたか 半数以上は出展が有効だったと感じているようです。

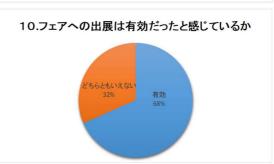
設問 11) 配布したポスターやチラシは活用したかポスターやチラシを活用したのは 37%でした。

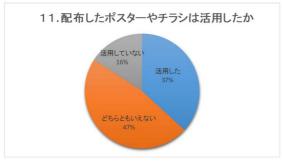
設問 12) 出展費用 (ブース 50,000 円、技術発表 10,000 円) は妥当か 妥当と感じた出展者は 89%でした。

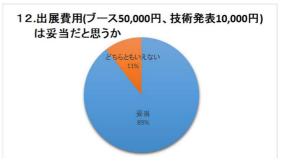












設問13) 出展ブースの配置は適当か

8割程度は適当だという結果になりました。

設問14) 意見交換スペースは必要か

必要だと感じたのは58%でした。

設問15) フェアが掲げる目的は達成したと思うか

達成したとやや達成したという回答を合計すると 79%となりました。

設問16) フェアの開催時期と開催時間は妥当か

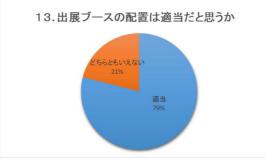
妥当という回答は95%でした。

設問17) フェアの開催場所は妥当か

妥当と感じた出展者は89%いたようです。

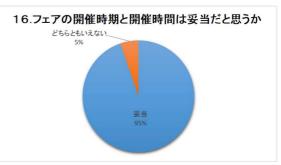
設問18) 毎年の開催を希望するか

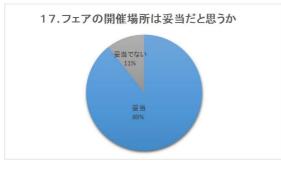
希望すると回答した方が79%でした。

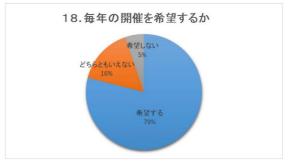












【出展者からの自由意見】

- ・市町村の役所担当者がもっと多く来て欲しい。
- ・地域性で仕方ないですが、来場者数を多くして欲しい。
- ・展示をしながら、発表も聞けたのが良かった。
- ・プレゼンに盛り上がりが欠けるきらいがある 事前 PR 方法や窓口でのプレゼン時間のビラ配 布など工夫が必要。発表中に自由に出入りできる状況もよくないと思う。
- ・継続的に開催されることを期待します。
- ・技術交流の良い機会と思います 継続されることを期待します。
- ・ブースの配置については、毎年出展している企業・団体を有利な配置に出来れば有難いです。
- ・展示ブースと技術発表のブースが近く、展示ブース内の声が聞き取りにくいことがあった。
- ・技術発表以外に、学生向けに就職説明会的な企業 PR の場があったら良いと思います。
- ・新技術を出す側からすれば、建設業の施工業者も重要ではあるが、コンサルタントや自治体技術者の来場が欲しい。
- ・出展者のプレゼンだけでなく、専門家の技術発表などの企画も検討してもらいたい。
- ・建設業者を中心とした技術情報の交流も必要であるが、住宅地盤相談会などの市民を対象 とした社会貢献も必要と思う。
- ・先進建設技術フェア in 熊本(主催:名古屋国際市場委員会)では地盤品質判定士の相談会が開催されていた。

6. まとめ

当機構は、地方公共団体の建設行政との連携・協働を図り、社会資本の整備及び公共施設の維持管理に関する各種の技術支援事業を通じて、県民の安全で安心な生活の実現に寄与することを目的としています。

当フェアは、公益目的事業の「技術力向上のための技術情報発信事業」における「建設技術情報啓発事業」に位置付けており、日々進化する建設技術の情報収集発信・利活用が必要不可欠であるという観点から建設技術の理解を深めるための取り組みの一環として実施しました。

第 2 回目であった昨年度を上回る方々にご来場いただきました。来場者ならびに出展者に対して実施しましたアンケート結果を見ると、多くの方にご満足いただいた一方、当日対応や出展内容などへのご意見・ご要望が多数あり、今後の開催にあたっての課題も明らかになりました。今後はそれらの課題を改善しながら、継続開催を希望する声も多かったことから充実したフェアとなるよう努めてまいります。

最後に、当フェアを開催するにあたり多大なご協力をいただきましたご講演者の皆様、佐 賀県をはじめとした共催者ならびに後援の方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げ ます。誠にありがとうございました。

(以上)